

---

## ハヤテ and 快斗「ヒナギクのゆくえ」

103K・S21

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハヤテ and 快斗「ヒナギクのゆくえ」

### 【Nコード】

N4903H

### 【作者名】

103K・S21

### 【あらすじ】

ハヤテと「まじつく快斗」の主人公、黒羽快斗がヒナギクをめぐるって争い(?)ます。

## 初めにこの小説の説明

この小説ではヒナギクをめぐるのハヤテと黒羽快斗の争い（？）を描きますが、

心理描写やストーリー展開は、ほとんどがハヤテ中心になると考えられます。

そのため、快斗の心情が分かりにくいシーンが多々出てくると思います。

そこで本編はハヤテ中心として描き、そのスピノフバージョンとして快斗の行動、心情を描いたものを基本的に本編のその話の次に投稿したいと思います。

ただしストーリー展開上、不都合がある場合は投稿を先延ばしにすることがあります。

その際、本編との区別をつけるためにサブタイトルの後に【スピノフ】と表記します。

会話シーンや心情の表現などが連続してだれのものか分からなくなる場合は「」や（）の前に以下の文字を表記します。

H II 綾崎ハヤテ

H I II 桂ヒナギク

N II 三千院ナギ

M II マリア

I II 瀬川泉

M I II 花菱美希

R II 朝風理沙

Y II 桂雪路

S I II 鷺ノ宮伊澄

W II 橘ワタル

S II 貴嶋サキ

A S II 愛沢咲夜

A 〓 西沢歩

K 〓 黒羽快斗

これ以外のものはそのつど表記します。

第一話の投稿は7月25日ごろになると思います。

ハヤテ and ヒナギク「ある冬の物語」と並行してやっていき  
たいと思いますのでどうぞよろしく願います。

## 第0章第一話〜出会い〜

これは、何気ない日に起こった。

SP「侵入者だー!」

三千院家に大声が響いた。

その声を聞いてハヤテ・ナギ・マリア・ヒナギク・咲夜・ワタル・その他の人々がやってきた。

なぜ彼らがいたか説明しなければならない。

なぜかというと、三千院家ではその時、盛大なパーティーが行われていたのである。

N「奴が来たのか。」

H「奴って誰ですか。」

?「怪盗キッドだ。」

どこからともなく声が聞こえた。

N「そうだ。怪盗キッドだ。って、今の、誰だ?」

全員「さあ?」

?「こつちですよ。」

全員が声のしたほうを向いた。

?「全く、ここの警備は手薄ですね。これじゃ簡単に盗めて面白くない。また出直してきますよ。その時はもっと警備を手堅くしてくださいよ。」

N「おまえは、」

全員「怪盗キッド!」

H「あなた、何しに来たのよ。」

キッド「……………」

H「早く答えなさいよ。」

キッド「……………もちろんこの家に伝わるという宝石を盗みに来たのですよ。でも、今日は帰ります。」

そついうとキッドは窓を破ってハンググライダーで外へ飛び出した。

H「お嬢様、今日のキッドおかしくありませんでしたか？」

N「なぜだ？」

H「ヒナギクさんを見た瞬間、固まっていたよ。」

N「……まあ、いいじゃないか。何もなかったし。警備を固めないといけないがな。」

H「そうですね……。」

ハヤテのこの言葉は本心ではなかった。ハヤテは何かしらのことを感じ取っていた。

そしてそれは結果としての中することになるのである。

## 第0章第一話〜出会い〜（後書き）

前置きの部分が思いつかなかったもので、少し短くなてしまいました  
が、次回は長くします。

## 第0章第一話〜出会い〜【スピンオフ】（前書き）

これは第0章第一話〜出会い〜のスピンオフです。



## 第0章第一話〜出会い〜【スピンオフ】

これは、何気ない日に起こった。

SP「侵入者だー!」

三千院家に大声が響いた。

キッド（やっと見つけたか。しょぼいなー。この家のSPは。）

その声を聞いてハヤテ・ナギ・マリア・ヒナギク・咲夜・ワタル・その他の人々がやってきた。

なぜ彼らがいたか説明しなければならない。

なぜかというと、三千院家ではその時、盛大なパーティーが行われていたのである。

N「奴が来たのか。」

H「奴って誰ですか。」

キッド「怪盗キッドだ。」

どこからともなく声が聞こえた。

N「そうだ。怪盗キッドだ。って、今の、誰だ？」

全員「さあ？」

キッド「こつちですよ。」

全員が声のしたほうを向いた。

キッド「全く、ここの警備は手薄ですね。これじゃ簡単に盗めて面白くない。また出直してきますよ。その時はもっと警備を手堅くしてくださいよ。」

N「おまえは、」

全員「怪盗キッド!」

H「あなた、何しに来たのよ。」

キッド「……………」

キッド（なんだ？この気持ちは。彼女を見るとドキドキする。）

H「早く答えなさいよ。」

キッド「……………」もちろんこの家に伝わるという宝石を盗みに

来たのですよ。でも、今日は帰ります。」

キッド（これが一目ぼれなのか、俺は彼女に惚れてしまったのか？  
あの桃色の髪の彼女に。）

そういうとキッドは窓を破ってハンググライダーで外へ飛び出した。

H「お嬢様、今日のキッドおかしくありませんでしたか？」

N「なぜだ？」

H「ヒナギクさんを見た瞬間、固まっていたよ。」

N「……まあ、いいじゃないか。何もなかったし。警備を  
固めないといけないがな。」

H「そうですね……。」

ハヤテのこの言葉は本心ではなかった。ハヤテは何かしらのことを  
感じ取っていた。

そしてそれは結果としての中することになるのである。

<そのころキッドは>

キッド（まさか、まさか俺が一目ぼれというものなのか？……  
・そうだ。きつとそうだ。）

そしてキッドは遙か彼方（といっても東京23区内だが）へ飛び去  
って行った。

## 第0章第一話〜出会い〜「スピンオフ」(後書き)

第一話のタイトルがしっくりこなかったので変更しました。初めてのスピンオフですが、少し追加しただけになってしまいました。次回<sup>キツ下</sup>はできるだけ快斗の心理描写を増やします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4903h/>

---

ハヤテ and 快斗「ヒナギクのゆくえ」

2010年10月28日04時33分発行